

スタジアムにおける車いす席整備の国際比較 価格と座席数の相関関係

木島 英登¹⁾

2020年東京オリパラに向けて、スタジアムのバリアフリー整備も国際標準で必要である。理想はすべてのエリアに車いす席があること、座席数も多いこと。無料であること、割引があることを求める人もいるが、そういったスタジアムは座席数も少なく、座れる場所も一部でしかない場合が多いことを検証する。プロ野球、Jリーグ、メジャーリーグ、欧州サッカー、NBA、36の有名チームの車いす席の状況（位置、数、価格）を比較する。

キーワード： スタジアム、車いす席、東京オリンピック

1. はじめに

2014年10月、カナダ・モントリオールで開催された国際会議 Destination for All の発表でスタジアムの車いす席についてのものがあつた。トロント・パンアメリカンゲーム2015では、車いす席は3%、enhanced seat（体が大きい人のための拡張座席）を含めて5%であるとしていた。

国際オリンピック協会の規定では、0.75%以上、パラリンピックでは、1%以上の車いす席の設置とある。しかし、新国立競技場の設計案は120席。8万人収容なので0.15%であつた。国際指針を受け、400~800席（0.5~1%）に変更すると発表されたが、当初の計画はお粗末である。

車いす席の設置にどうして差が出るのか？その理由の一つは優遇にあると考える。車いす席の設置=利益の圧迫ではなく、一人のお客さんとして共存でき、より多くの人々がスポーツ観戦を楽しめるようになって欲しいと願い、調査をした。

2. 調査概要

調査時期： 2015年5月

調査方法： 公式サイト、インターネットによる

調査対象： 国内外の有名プロスポーツチームとそのホームスタジアム



◆プロ野球 12球団

読売ジャイアンツ、阪神タイガース、広島カープ、ヤクルトスワローズ、横浜ベイスターズ、中日ドラゴンズ、ソフトバンクホークス、北海道日本ハム、東北楽天、千葉ロッテ、西武ライオンズ、オリックスバファローズ

◆Jリーグ 10チーム

浦和レッズ、鹿島アントラーズ、FC東京、横浜Fマリノス、アルビレックス新潟、ベガルタ仙台、川崎フロンターレ、セレッソ大阪、ガンバ大阪、松本山雅

◆アメリカ MLB、NFL、NBA 6チーム

NYヤンキース、テキサスレンジャース、インディアナポリス・コルツ、シアトル・シーホークス、

1)会員： 木島英登バリアフリー研究所 木島英登

ヒューストン・ロケッツ、デンバー・ナゲッツ

◆欧州サッカー 8チーム

マンチェスター・ユナイテッド、チェルシー、バイエルン・ミュンヘン、レアル・マドリッド、バルセロナ、ユベントス、ACミラン、パリ・サンジェルマン

3. 調査結果

日本を代表するスポーツ興行、プロ野球巨人の東京ドームは、車いす席が12しかない。収容人員に対して0.03%である。位置も内野コンコース、ポール際、立見席と一緒の場所で見づらい。価格は、2500円と通常3900円のエリアなので安い設定になっているが、すぐ隣の外野席は2200円である。また球団サイトでは車いす席への言及がない。

高校野球も開催される甲子園球場は、2010年の改修で車いす席が増加して31になった。設置割合にすれば、0.07%と決して高くない。ただし全エリアに車いす席があるため、多様な選択肢があるのは良い。最寄駅はずっと階段だけであったが、ようやくエレベーターが設置。アクセスも改善された。

最も優れたバリアフリーな野球場は、広島のマツダスタジアムである。メジャーリーグを参考にコンコースを広くとり回遊性を高め、車いす席はそのコンコースを中心に全エリアに142と設置されている。割合は0.47%。専用駐車場(2000円)も有り。パーティ席なども車いすアクセス可能。情報公開も素晴らしい。

プロ野球	座席数	車いす席	割合
読売ジャイアンツ	45,600	12	0.03
阪神タイガース	47,541	31	0.07
広島カープ	30,350	142	0.47
ヤクルトスワローズ	34,572	14	0.04
横浜ベイスターズ	27,686	6	0.02
中日ドラゴンズ	38,414	20	0.05
ソフトバンク	38,561	36	0.09
北海道日本ハム	40,476	64	0.16
東北楽天	28,736	43	0.15
千葉ロッテ	30,082	8	0.03
埼玉西武ライオンズ	29,860	12	0.04
オリックス	36,146	8	0.02
		平均	0.10

2002年サッカーW杯の会場にもなった札幌ドームは、内野スタンド64席、外野スタンド48席、内野VIP3席、スイートシート2席、合計117席の設計だが、現在は内野席64しか開放しておらず、せっかくの車いす席が全て使われていない。作られても使われない事例は地方に多い。

東北楽天は、全エリアに43席と多くなっている。価格は同じ。プロ野球では珍しい介助者無料。駐車場も用意され無料。サービスや設備はメジャーリーグの良いところを真似ている。

プロ野球の車いす席のチケット価格で特徴的なのは、多くで割引価格が適応されていることである。座席数の少ない球団では、電話予約のみや情報開示が少なく、チケット購入が面倒なことが多い。介助者の料金は、車いす席と同じことが多く、Jリーグでよくみられる介助者無料は一つもない。座席位置がとても良い、横浜スタジアム、千葉マリスタジアムでは、介助者料金は高価なエリアの通常料金となっている。

プロ野球	車いす席の位置	価格	介助者
読売ジャイアンツ	ポール際	0.6	同じ
阪神タイガース	全エリア	0.8	同じ
広島カープ	ほぼ全エリア	0.6	同じ
ヤクルトスワローズ	内野と外野で4か所	1.0	同じ
横浜ベイスターズ	1か所 一塁ベンチ上	0.4	通常
中日ドラゴンズ	3F 1塁側と3塁側	0.6	同じ
ソフトバンク	ポール際最後列など	0.6	同じ
北海道日本ハム	内野中段部	0.3	同じ
東北楽天	ほぼ全エリア	1.0	無料
千葉ロッテ	バックネット裏	0.3	通常
埼玉西武ライオンズ	3塁側最後列	0.8	同じ
オリックス	内野専用席とコンコース	1.0	同じ

※価格は、車いす席と同じエリアの一般席との価格差のこと
 ※介助者料金は、車いす席と同じ、通常料金、無料と3つに分かれる

Jリーグからは12のチームを抽出した。2002年日韓ワールドカップの開催も影響してか、全体としてプロ野球よりも、かなり多い車いす席の設置割合である。

リーグで一番の集客を誇る浦和レッズでは、メインバック1階席の中段コンコースに車いす席が設置されている。駐車場の確保、介助者無料もあってか、利用者が多く、車いす席は完売することも多い。

ベガルタ仙台は、96席あるが、ゴール裏は使われず、実際にはメインスタンドしか開放していない。札幌ドームと同じような運営になっており、せつかくの設備が使われていない。

ガンバ大阪は、2016年に新スタジアムが完成。コンコースに車いす席の設置が最大400とされ、1.0%の設置割合になり国際標準に変わる。

Jリーグ	座席数	車いす席	割合
浦和レッズ	63,700	150	0.24
鹿島アントラーズ	38,908	140	0.36
FC東京	49,970	394	0.79
横浜Fマリノス	72,327	110	0.15
アルビレックス新潟	42,300	104	0.25
ベガルタ仙台	19,694	96	0.49
川崎フロンターレ	27,495	54	0.20
セレッソ大阪	47,816	64	0.13
ガンバ大阪	21,000	12	0.06
松本山雅	20,000	80	0.40
平均			0.31

Jリーグの車いす席の価格は、複数エリアに座席があるときは一般と同じ料金。1ヶ所の場合は、スタジアムでの最低価格の料金設定が多い。また介助者が無料が多い。チケットも専用電話予約でなく、インターネットやコンビニなどで普通に購入できることが多い。

調査対象外ではあるが、J2リーグなど地方では、障害者無料招待をしている場合もある。

Jリーグ	車いす席の位置	価格	介助者
浦和レッズ	メイン、バック中段	70	無料
鹿島アントラーズ	バック最前列	60	無料
FC東京	全エリア、専用席はメイン	100	無料
横浜Fマリノス	全エリア 2階席は無し	100	無料
アルビレックス新潟	ほぼ全エリア	60	無料
ベガルタ仙台	メインスタンドのみ開放	100	無料
川崎フロンターレ	メインとバック	100	無料
セレッソ大阪	メインとバック	50	無料
ガンバ大阪	メインの良い位置	50	同じ
松本山雅	メインとバック	100	無料

一方、アメリカのスタジアムの車いす席は、とても多い。設置割合は1%を超えており、選択肢が豊富である。

実際に幾つものスタジアム、アリーナを利用し

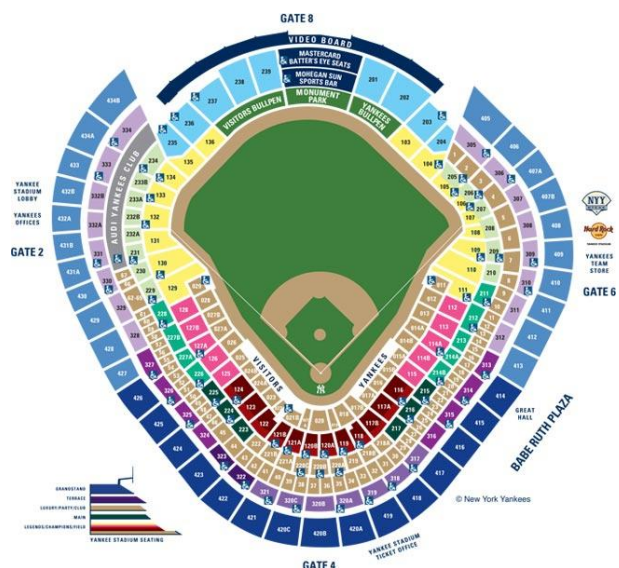
たが、車いす客がいないときは一般にリリースして、パイプ椅子を置いて座って観戦する。階段歩行が苦手な人も車いす席を利用することが多い。

アメリカ	座席数	車いす席	割合
NYヤンキース	50,086	506	1.01
テキサスレンジャース	49,115	475	0.97
インディアナポリス・コルツ	63,000	1,200	1.90
シアトル・シーホークス	67,000	1,400	2.09
ヒューストン・ロケッツ	18,300	159	0.87
デンバー・ナゲッツ	19,155	298	1.56
平均			1.40

アメリカでは、全エリアに座席があるため、価格の優遇はない。その必要がない。もちろん介助者も全く同じ料金である。良い席に座りたければ、お金を出せばよい。障害者も同じことである。

アメリカ	車いす席の位置	価格	介助者
NYヤンキース	全てに有り	100	同じ
テキサスレンジャース	全てに有り	100	同じ
インディアナポリス	全てに有り	100	同じ
シーホークス	全てに有り	100	同じ
ヒューストン・ロケッツ	全てに有り	100	同じ
デンバー・ナゲッツ	全てに有り	100	同じ

下図は、ニューヨーク・ヤンキースの座席図である。69エリア、すべての価格帯に車いす席がある。介助者530席、490の車いすから移動できる座席もある。チケット価格の優遇もないため、一般座席と同じようにネット、窓口でのチケット販売であり、予約も簡単である。



最後に、欧州のサッカーである。近年、世界中に試合が放映され、ビジネスは活況を呈しているが、スタジアムのバリアフリーは、お粗末である。日本と比較しても車いす席は少ない。

スペインのレアル・マドリッドは、車いす席がない。バルセロナもゴール裏の1階最後列で天井が邪魔をする狭いスペースしかない。

ドイツのバイエルン、イタリアのユベントスなど新しいスタジアムでは、車いす席は複数エリアに多く設置されている。とはいえ、アメリカと比較すると、そのバリアフリー基準は極めて低い。

欧州サッカー	座席数	車いす席	割合
マンチェスター・ユナイテッド	76,212	120	0.16
チェルシー	41,798	108	0.26
バイエルン・ミュンヘン	68,000	227	0.33
レアル・マドリッド	81,044	0	0.00
バルセロナ	99,354	10	0.01
ユベントス	41,000	150	0.37
ACミラン	80,018	176	0.22
パリサンジェルマン	48,527	40	0.08
	平均		0.18

欧州サッカーの車いす席で特徴的なのは、価格である。車いす席は無料である場合が非常に多い。その一方で座席数が少ない。車いす席の位置が悪い。また無料のため人気チームでは、車いす席の予約が困難な場合も多い。

イギリスのマンチェスターユナイテッドでは、無料といっても実際は会員になる必要がある（32ポンド）。120の車いす席は常に抽選で振り分けられる。英国の指針によれば280席が必要とされているので足りていない。

プレミアリーグ2万~4万のスタジアムは、150以上、4万以上は、210以上あるべきだとの政府見解があるが、15%のクラブしか満たしていない。

欧州サッカー	車いす席の位置	価格	介助者
マンチェスターU	ゴール裏1か所	無料	無料
チェルシー	3つの場所、見づらい	無料	無料
バイエルン	メイン、バック1階席後方	5ユーロ	無料
レアル・マドリッド	なし	なし	なし
バルセロナ	ゴール裏の最後列	不明	無料
ユベントス	メイン1階、2階、ゴール裏	半額	無料
ACミラン	バックスタンド最前列	無料	無料
パリサンジェルマン	バックスタンド最前列	無料	無料

4. 考察

日本、アメリカ、欧州で、かなりの違いがある。プロ野球では車いす席の割引はが多いが座席は少ない。Jリーグでは、座席数はそこそこあるが、ゴール裏で見れないなど場所が選べない。でも介助者無料が多い。アメリカでは、座席は多い、どこでも座れるが割引は一切ない。欧州では、無料だが車いすの座席数は少なく、場所も限られる。

車いす席の座席数が多い場合は価格優遇は減り、座席数が少ない場合は、無料や優遇が多くなる傾向が見て取れる。

5. 終わりに

車いす席を多く作ると、全体の収容人数が減ってしまう、収益が圧迫されるという恐れがあるのだろうが、利用者が多いのであれば問題はない。不自由のない環境であれば価格も同じように設定すれば良い。

施設側としては、設備を作っても利用者がいないとの不満がある。2002年日韓ワールドカップが当てはまる。車いす席のチケット券売システムがなかったため、車いす席はたくさんあるのに、そこに座る観客はおらずガラガラだった。チケットが売られなければ座ることもできない。

情報公開によるチケット購入のしやすさ、駐車場手配などのアクセス配慮がなければ、実際に設備があっても利用はしにくい。ソフトも整備しなければ実際の利用は増えない。

車いす席の少ない場合は、値段が安いことが多く、一般と同じように買えるようにしてしまうと、不正利用が起き、その予防として購入システムが複雑になり、情報公開がされない傾向がある。悪循環である。

無料招待や介助者無料があっても構わないと思うが、お金を出しても良い座席に座りたい、確実に観戦をしたい人もいる。選択肢を増やすことが大切である。

アメリカのように、障害者専用にせず、利用者がいないときは一般にリリースする。階段歩行が苦手な高齢者や乳幼児連れなど、車いす席の対象の幅を広げることも方法である。また、チケット価格の優遇がなければ、不正利用は生まれなため、シンプルな券売システムが可能となる。

福祉視点ではなく、車いす席が多く作られ、気軽に多くの人利用できるように願う。